

小学校で行う 「地域安全マップづくり」 マニュアル



広島県環境県民局県民活動課

はじめに

「地域安全マップづくり」を御存知ですか。「地域安全マップづくり」とは、「入りやすい」「見えにくい」をキーワードに、犯罪が起こりやすい場所を子どもたち自身が判断し、場所に応じた適切な行動を取ることができる力（危険回避能力）を育てる取組です。

「地域安全マップづくり」の目的は、「地図を作る」ことではなく、一連の活動の中で、子どもたちに「危険な場所」を判断できる力を身につけてもらうことにあります。

子どもが犠牲になる悲しい事件が続いた平成17年頃から県内でもこの取組が始められ、現在でも継続的に取り組んでおられる学校がある一方で、数年前に作製した地図がそのまま使用されていたり、また、「地域安全マップづくり」を指導されたことのない先生方もまだおられます。

「地域安全マップづくり」は、子どもたちの危険回避能力の向上に効果が期待できることから、県ではこの取組を推進しています。

このたび、学校で実施される様々な安全教育の中の一つのメニューとして「地域安全マップづくり」に取り組んでいただけるよう、「小学校で行う地域安全マップづくり」のマニュアルを作成しました。学校、地域の実情にあわせ、有効に活用していただければ幸いです。

平成25年3月

広島県環境県民局県民活動課長

1 地域安全マップづくりとは

「入りやすい」「見えにくい」をキーワードに、犯罪が起こりやすい場所を子どもたち自身が判断し、場所に応じた適切な行動をとれる力(危険回避能力)を育てる取組

- 犯罪が起こりやすい場所には、「誰もが『入りやすく』、誰からも『見えにくい』」といった共通点があるとされています。
- 「地域安全マップづくり」では、「誰が」犯罪を行うかではなく、「どこで」犯罪が行われるか、つまり「不審者」といった『人』ではなく、犯罪が起こりやすい『場所』に着目します。
- 子どもたちが「危険な場所」を判断できる力を身に付け、場所に応じた適切な行動をとることにより、犯罪にあう危険を未然に防ぐことが何より重要です。

適切な行動とは・・・

- ①危険な場所には、できるだけ近づかない
- ②危険な場所に行かないといけなときは、一人で行かず、友達と一緒にいく
- ③どうしても危険な場所に一人で行かないといけなときは、まわりによく注意する

- 「地域安全マップづくり」の目的は、「地図を作る」ことではなく、子どもたちに「危険な場所」を判断できる力をつけてもらうことにあります。
また、犯罪被害からの予防を目的とするものであるため、道路・河川や民家の不具合を探し出し指摘することは、この「地域安全マップづくり」の目的ではありません。

???「入りやすく」「見えにくい」場所は、なぜ危険なのか???

- 「入りやすい」場所は
- ☆ 犯罪者が簡単に、怪しまれることなくターゲット（子ども）に近づける
 - ☆ 邪魔になるものがないので、簡単に悪いことができる
 - ☆ 犯罪者が悪いことをしたあとで、すぐに逃げることができる
- 「見えにくい」場所は
- ☆ 犯罪者がかくれて待ち伏せできる
 - ☆ 警察やまわりの大人に通報されないから悪いことができる
 - ☆ 助けを求めても、誰からも見えないから誰も助けにきてくれない

具体的例

入りやすい → 危険	入りにくい → 安全
<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に囲いのない公園 ・出入口のたくさんある公園 ・ガードレールのない歩道 ・男女共用のトイレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に囲いのある公園 ・出入口が1ヶ所しかない公園 ・ガードレールのある歩道 ・男女が分かれたトイレ

見えにくい → 危険	見えやすい → 安全
<p>【物理的に見えにくい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲を高い塀で囲まれた公園 ・草木が生い茂っている公園 ・高い塀や生垣が左右に続く道路 ・建物の壁側と接している公園 ・街灯のない（こわれている）道路 ・公園のトイレ ・トンネル、地下道 <p>【心理的に見えにくい（地域住民が無関心）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが散乱している公園 ・違法駐車や落書きが放置されている道路 	<p>【物理的に見えやすい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲が低い垣根や金網フェンスで囲まれた公園 ・植え込みが低く手入れされている公園 ・住宅や商店の中から見渡せる道路 ・建物のベランダ側と接している公園 ・街灯のある道路 <p>【心理的に見えやすい（地域住民の関心がある）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいに清掃されている公園 ・違法駐車や落書きのない道路

2 地域安全マップづくりの流れ

事前学習



標準時間 (45分)

フィールドワーク



(60分)

マップ作製



(60分)

発表



(20分)

	内容	留意点	準備物
事前学習	危険な場所、安全な場所を見分けるための「キーワード（入りやすい・見えにくい）」を学ぶ。危険な場所、安全な場所を見分ける力がついたら、場所に合った適切な行動をとることが大事であることを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「入りやすい」「見えにくい」というキーワードをしっかりと覚えさせる ・場所を判断できる力がついたら、場所に合った適切な行動をとることが重要であるということを確認する 	教材 パソコン プロジェクター、スクリーン (大型テレビ)
フィールドワーク	小グループ(6~8人)に分かれ、グループごとに決められた範囲を歩き、事前学習で学んだ「キーワード（入りやすい・見えにくい）」を基に、「危険な場所」「安全な場所」を探す。	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯の視点からすれないように注意する ・指導者が教えるのではなく、気付かせるよう声かけを行う ・危険・安全の理由は、キーワードを使って説明させる ・インタビューの仕方を指導する ・地域の方へのあいさつ、配慮などを指導する ・事故にあわないように注意する 	エリア地図、探検ボード、筆記用具 (地図係) カメラ(カメラ係) インタビュー原稿(インタビュー係) メモ、探検ボード、筆記用具(メモ係)
マップ作製	フィールドワークで発見した「危険な場所」「安全な場所」の写真を貼り、その説明を書き込んだ地図を作製する。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真に添付するコメントには、キーワードを使って理由を書くよう指導する(キーワードを使って説明していなければ、キーワードを書き加えるよう声かけをする) ・正確な地図にこだわらない(道路を書くことに時間をかけすぎない) ・インタビューで教えてもらった事も、地図内に記載するよう指導する ・対応策を考えさせる(高学年の場合) 	模造紙、マジック、付箋(コメント用)、はさみ、のり、折り紙、危険な場所・安全な場所の写真(L版サイズに印刷したもの) フィールドワークで使用した地図 フィールドワーク時に書き込んだメモ
発表	作製した地図を掲示しながら、フィールドワークで発見した「危険な場所」「安全な場所」について、地域安全マップづくりを通して発見したことなどを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のグループが発見した危険な場所、安全な場所を、キーワードを使って、他のグループの人に教えてあげるつもりで発表するよう指導する ・保護者参観、全校朝会など、発表の場を検討し、保護者、他学年の児童への啓発も行う 	掲示用磁石 指示棒

※ 全体の流れは「地域安全マップ」教材ビデオを御覧ください。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/anzen/kodomo-anzenmap1.html>

3 実施に当たっての事前準備

(1) 教材の用意

「キーワード（入りやすい・見えにくい）」を理解させるための絵や写真を用意してください。県民活動課では、パワーポイント教材を作成しています。御要望があれば、コピーして使用していただくことも可能です。ただし、内容は学年を考慮し、アレンジを加えて使用してください。

(2) フィールドワークエリアの決定、地図の用意（別紙1（P4, 5））

通学路にこだわる必要はありません。学校周辺で、様々な要素（住宅、商店、田畑、公園等）が含まれているエリアを選択してください。

大人が普通に歩いて、フィールドワーク時間の3分の1の時間（例：フィールドワークが60分であれば、大人が普通に歩いて20分）で戻ってこられる範囲が適当です。

体験する児童は毎年変わるので、毎年エリアを変更する必要はありません。校区全体の地図を作製することが目的ではないので、毎年同じエリアを歩くことは可能です。ただし、前年度の反省に立ち、適宜、見直しを行っていけば、より効果的なエリアを選定することができるでしょう。

(3) フィールドワーク時の協力者（ボランティア・保護者等）の確保

保護者など、マップづくり未経験者に補助者として協力してもらう場合には、「地域安全マップづくり」補助者マニュアル（別紙2（P6～9））を渡し、当日までに『『地域安全マップ』とは何か』やフィールドワーク時の留意事項等について学習しておいてもらいましょう。事前に集まっておき、簡単な講義を聞いてもらうとより効果的です。

(4) その他準備物の用意

標準的な準備物は、別紙3（P10）のとおりです。実施する学年によって、準備物に工夫をすれば、時間短縮も可能です。フィールドワーク用メモ（別紙4（P11））、インタビュー原稿（別紙5（P12））も、学年に応じて工夫して作製してもよいでしょう。

(5) 班（1グループ6～8人）編成

児童に役割分担（別紙6「役割分担表」（P13）のとおり）を説明し、当日までに役割を決めておきましょう。

4 実施例（モデルケース）

ここに示したものは、あくまでモデルケースです。学校規模、確保できる時間数等に応じて、実施可能な形態で実施してください。

(1) 4時間コース①（1時間目から4時間目を使用し、事前学習から発表までを実施）

1時間目	2時間目	大休憩	3時間目	4時間目
事前学習	フィールドワーク		マップ作製	発表

※ フィールドワーク後、すぐマップ作成を行うので、写真の印刷に工夫が必要。

(2) 4時間コース②（1日2時間ずつの2日間で、事前学習から発表までを実施）

【1日目】

1時間目	2時間目	大休憩	3時間目	4時間目
事前学習	フィールドワーク			

【2日目】

1時間目	2時間目	大休憩	3時間目	4時間目
			マップ作製	発表

※ フィールドワーク後、マップ作成までに時間があるので、写真の印刷などにも余裕があります。

(3) 2時間コース（2時間を使用し、事前学習とフィールドワークのみ実施。マップ作製は実施しない。）

1時間目	2時間目	大休憩	3時間目	4時間目
事前学習	フィールドワーク			

※ フィールドワークで発見した場所について、ふりかえりができるプリント等を作成すると効果的です。

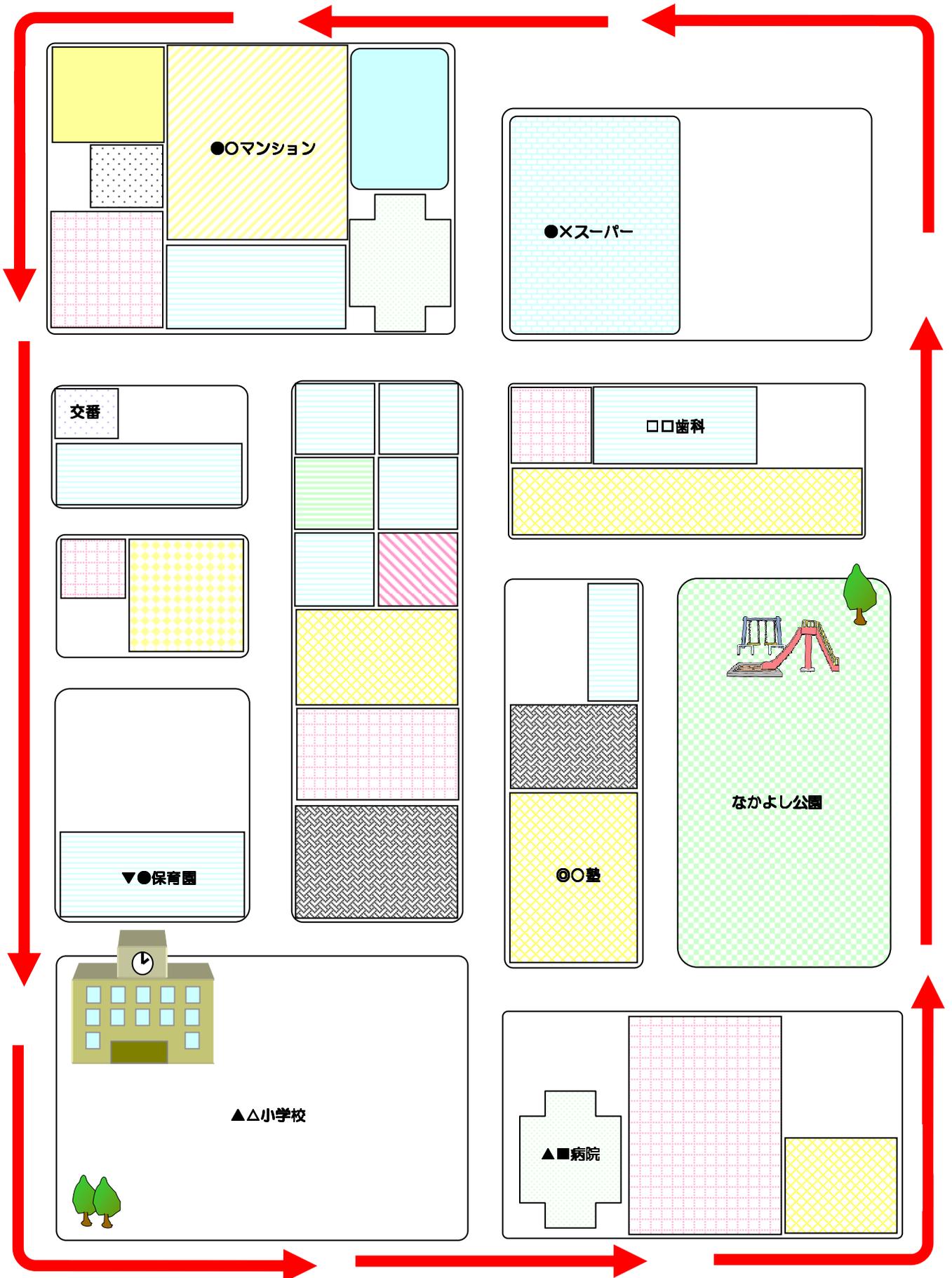
(4) 1時間コース（1時間を使用し、事前学習のみ実施。フィールドワーク、マップ作製は実施しない。）

1時間目	2時間目	大休憩	3時間目	4時間目
			事前学習	

※ 通学路、家の近所などで、「危険な場所」「安全な場所」を探す課題などを出し、ふりかえりの機会を設けると効果的です。

フィールドワーク地図（見本）

パターン1 広いエリアの周囲（ 線上）を歩く。





「地域安全マップづくり」補助者マニュアル



このたびは、「地域安全マップづくり」に御協力いただき、ありがとうございます。

このリーフレットは、地域の方、保護者の方に「地域安全マップづくり」に御協力いただく上でのポイントをまとめたものです。子どもたちの危険回避能力を養うためには、子ども自らが参加し、考える活動そのものが大切です。この活動が、より効果的なものとなるよう、ご支援のほどよろしく申し上げます。

「地域安全マップづくり」とは・・・

「入りやすい」「見えにくい」をキーワードに、犯罪が起こりやすい場所を子どもたち自身が判断し、場所に応じた適切な行動をとれる力(危険回避能力)を育てる取組

- 犯罪が起こりやすい場所には、「誰もが『入りやすく』、誰からも『見えにくい』」といった共通点があるとされています。
- 「地域安全マップづくり」では、「誰が」犯罪を行うかではなく、「どこで」犯罪が行われるか、つまり「不審者」といった『人』ではなく、犯罪が起こりやすい『場所』に着目します。
- 子どもたちが「危険な場所」を判断できる力を身に付け、場所に応じた適切な行動をとることにより、犯罪にあう危険を未然に防ぐことが何より重要です。

適切な行動とは・・・

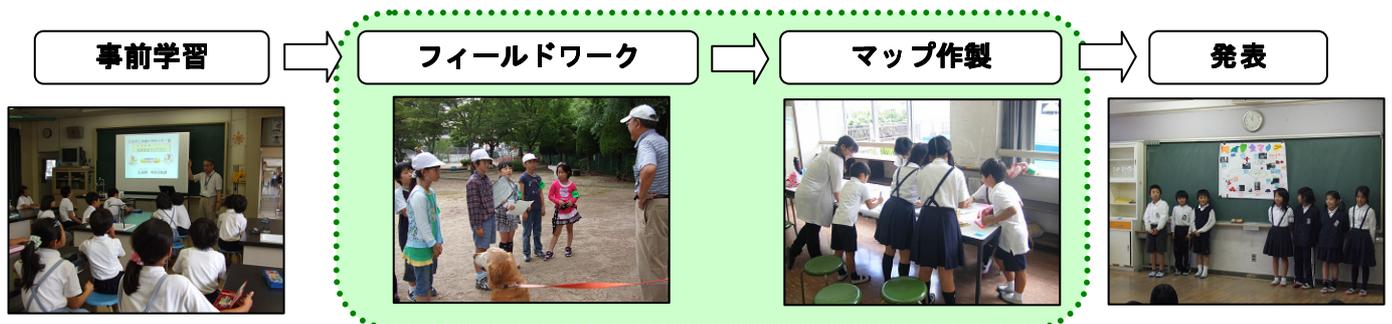
- ① 危険な場所には、できるだけ近づかない
- ② 危険な場所に行かないといけなときは、一人で行かず、友達と一緒にいく
- ③ どうしても危険な場所に一人で行かないといけなときは、まわりによく注意する

- 「地域安全マップづくり」の目的は、「地図を作る」ことではなく、子どもたちに「危険な場所」を判断できる力をつけてもらうことにあります。

また、犯罪被害からの予防を目的とするものであるため、道路・河川や民家の不具合を探し出し指摘することは、この「地域安全マップづくり」の目的ではありません。

- この活動を通じて、子どもたちが初めて行く場所でもそこが「危険な場所」なのか「安全な場所」なのかを自分自身で判断し、場所に応じた適切な行動をとることができるようになることを期待しています。

地域安全マップづくりの流れ



1 事前学習（教師・講師が担当します。45分程度）

危険な場所とは、誰もが「入りやすく」誰からも「見えにくい」ところ
安全な場所とは、誰もが「入りにくく」誰からも「見えやすい」ところ ということを学びます

危険な場所のキーワード : 「入りやすい」「見えにくい」

???「入りやすく」「見えにくい」場所は、どうして危険なの???

- 「入りやすい」場所は ☆ 犯罪者が簡単に、怪しまれることなくターゲット（子ども）に近づける
 ☆ 邪魔になるものがないので、簡単に悪いことができる
 ☆ 犯罪者が悪いことをしたあとで、すぐに逃げることができる
- 「見えにくい」場所は ☆ 犯罪者がかくれて待ち伏せできる
 ☆ 警察やまわりの大人に通報されないから悪いことができる
 ☆ 助けを求めても、誰からも見えないから誰も助けにきてくれない

具体的にはこんな場所です！

入りやすい → 危険	入りにくい → 安全
<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に囲いのない公園 ・出入口のたくさんある公園 ・ガードレールのない歩道 ・男女共用のトイレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に囲いのある公園 ・出入口が1ヶ所しかない公園 ・ガードレールのある歩道 ・男女が分かれたトイレ

見えにくい → 危険	見えやすい → 安全
<p>【物理的に見えにくい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲を高い塀で囲まれた公園 ・草木が生い茂っている公園 ・高い塀や生垣が左右に続く道路 ・建物の壁側と接している公園 ・街灯のない（こわれている）道路 ・公園のトイレ ・トンネル，地下道 <p>【心理的に見えにくい（地域住民が無関心）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが散乱している公園 ・違法駐車や落書きが放置されている道路 	<p>【物理的に見えやすい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲が低い垣根や金網フェンスで囲まれた公園 ・植え込みが低く手入れされている公園 ・住宅や商店の中から見渡せる道路 ・建物のベランダ側と接している公園 ・街灯のある道路 <p>【心理的に見えやすい（地域住民の関心がある）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいに清掃されている公園 ・違法駐車や落書きのない道路



高い塀や生垣が左右に続く道路
（見えにくい→危険）



ガードレールのある歩道
（入りにくい→安全）



公園のトイレ
（入りやすく、見えにくい→危険）

2 フィールドワーク（補助者として、1グループを担当していただきます。（60分程度））

～ 補助者の役割は、児童のグループ活動をサポートすることです ～

- ① 各グループで決められた範囲（直前に地図を配付します）を歩き、事前学習で学んだキーワード「入りやすい」「見えにくい」を基に、「危険な場所」「安全な場所」（それぞれ3～4箇所程度）を探す。
 - ② 発見した場所で、カメラ係（児童）が写真を撮影する。（プライバシーに配慮させてください。）
地図係（児童）が地図の該当場所に番号をふる。
メモ係（児童）がその場所名と危険・安全の理由を記入する。（下記メモ用紙参照）
 - ③ 途中、地域の方にインタビュー係（児童）がインタビューを行う。（下記原稿参照）
- ※ 班長は列の先頭を歩き、班員をリードしていくよう指導してください。また副班長は、列の最後尾を歩き、班長の手助けをするよう指導してください。

【フィールドワークにあたっての注意】

- 「地域安全マップづくり」におけるフィールドワークは、**防犯に関する**「危険な場所」・「安全な場所」を探して歩く活動です。交通安全の視点（例：この交差点は信号がないから危険）や防災の視点（例：この水路は雨が降ると水かさが増すから危険）にならないように注意してください。
- 危険な場所、安全な場所を子どもが素通りしそうになったら、呼び止めて、「ここはキーワードを使ったらどう説明できるかな？」と問いかけてみてください。「ここは危険な場所だよ！」と**教えるのではなく、子どもたち自身が気づく**ように働きかけてください。見えにくい場所などで、数人の児童に該当場所に入ってもらい、残りの児童に見えにくいということを体感させること（シミュレーション）なども効果的です。
- 写真は**1箇所あたり1枚、全部で6～8枚**でお願いします。また、同じような説明になるところ（例：子ども110番の家など）はその都度すべてを撮影するのではなく、場所を確認する程度にとどめてください。また、人の顔や表札・車のナンバーなど、プライバシーの侵害になるようなものは撮影しないように注意してください。（どうしても写ってしまう場合は、印刷した写真の該当箇所を黒塗りしてください。）
- メモの取り方は、原則、**キーワードを使って理由を書く**ように指導してください。（次ページの記入例を参考にしてください。）キーワードで説明しにくい「子ども110番の家」など安全な場所は「何かあった時に、逃げ込めるから安全」ということを理解させてください。
- 地図内すべての道を歩く必要はありません。時間内に戻ってこられるように、歩く範囲を調節してください。
- 児童は班長を先頭に一列で歩きます。補助者は列の最後尾（副班長の後）を歩いてください。

役割	内容	名前
班長（1名）	グループのリーダー。 みんなの行動や意見をまとめます。	
副班長（1名）	班長を助けるサブリーダー。フィールドワークのときに列の後ろを歩きます。	
地図係（1名）	フィールドワークのときに発見した危険な場所や安全な場所などを、地図に書きこみます。	
カメラ係（1～2名）	フィールドワークのときに発見した危険な場所や安全な場所などを、デジタルカメラで撮影します。	
インタビュー係（1名）	フィールドワークのときに出会ったまちの人にインタビューをします。	
メモ係（1～2名）	フィールドワークのときに発見した場所が、どうして危険だったか、安全だったか理由を書きます。	

番号	場所(ばしょ)	理由(りゆう)	区分
①	学校の前(まへ)の道	ガードレールがない	入りやすい 見えにくい 安全
②	〇〇商店	子ども110番の家 何かあったら助けをもとめてにげこめる	入りやすい 見えにくい 安全
①			入りやすい 見えにくい 安全
②			入りやすい 見えにくい 安全
			入りやすい 見えにくい 安全
			安全

インタビュー原稿

おはようございます。（こんにちは。）

〇〇小学校〇年生の（ ）です。

いま、地域安全マップの勉強をしています。

もうしわけありませんが、インタビューをしてもいいですか。

（いいですよ。と言われたら）

このへんで、犯罪がおきそうな危険な場所ありますか？

（場所だけ教えてくれたら『理由』を聞いてみましょう。）

ご協力ありがとうございました。

3 マップ作製（補助者として、1グループを担当していただきます。（60分程度））

～ 補助者の役割は、児童のグループ活動をサポートすることです ～

フィールドワークで発見した「危険な場所」「安全な場所」を書き込んだ地図を作製していきます。その手順は次のとおりです。班長をリーダーとして、グループの全員が活動に参加するよう、サポートしてください。（補助者が中心となって作製しないよう注意してください。）

- ① 歩いた範囲の大まかな道路を鉛筆で下書きし、マジックでなぞる。
- ② プリントアウトされた写真を地図に置いていく。
- ③ それぞれの写真について、付箋にコメント（危険な理由・安全な理由）を書く。
- ④ 写真、コメントを地図に貼っていく。
- ⑤ タイトル（「地域安全マップ」）を付け、地図に装飾（車、木など）をしていく。

【マップ作製にあたっての注意】

- 正確な地図を作ることが目的ではないので、方角や建物の配置などにこだわらないようアドバイスしてください。
- それぞれの児童が1枚はコメント（写真の説明）を書くようサポートしてください。付箋の使い方（危険・安全はそれぞれ何色にするかなど）や色紙の使い方は児童の判断に任せてください。
- コメントを記載する際には、原則として、キーワードを使うようにアドバイスしてください。この際に、フィールドワークでのメモが参考になります。「子ども110番の家」はキーワードで説明しにくいので、「何かあったら逃げ込めるから安全」などと記載します。

例：「ガードレールがないから危険」～キーワードが使われていないのでよくない例です。
よい例は～「ガードレールがなく、入りやすいから危険」

- インタビューで聞いたことも記入するようアドバイスしてください。
- 地図が概ね完成したら、危険な場所にはできるだけ近づかないことを確認し、どうしてもそのような場所を通らないといけない場合の対応策などを子どもたちに考えさせてください。高学年であれば、考えた対応策を記入させておくことも効果的です。

危険な場所・安全な場所の写真をそれぞれ貼ります



写真のコメント
（危険な理由・安全な理由）

小学校近くの細い道

左右を高い塀にはさまれていて
見えにくい
キケン！

コメント例

4 発表（進行は教師・講師が担当します。20分程度）

フィールドワークで発見した「危険な場所」「安全な場所」について、地図を見せながら、発見したことや自分の意見を発表していきます。

【発表にあたっての注意】

- 基本は、コメントをそのまま発表すればよいのですが、発表する場合の説明文になっているか、実際に児童に発表の練習をさせて、アドバイスしてください。
- 高学年であれば、危険な場所での対応策もあわせて発表できるようアドバイスしてください。

「地域安全マップづくり」準備物一覧表

項 目		個数	内 容
事前学習	パソコン	1	大型テレビでも可
	教材CD	1	
	プロジェクター	1	
	スクリーン	1	
フィールドワーク	バインダー（探検ボード）	2×班数	地図係用1，メモ係用1
	地図（別紙1）	3×班数	班長用，地図係用，指導者用
	フィールドワーク用メモ（別紙4）	1×班数	
	インタビュー原稿（別紙5）	1×班数	
	デジタルカメラ	1×班数	
写真印刷	プリンター	1	
	写真専用紙	10×班数	A4コピー用紙に4枚印刷する場合不要
マップ作製	模造紙（※1）	1×班数	白い通常サイズのもの
	のり	児童数分	
	はさみ	児童数分	
	筆記用具	児童数分	
	付箋（75mm×75mm）（※2）	20×班数	1班あたり2色を10枚程度ずつ
	マジック（8色程度）	1×班数	太・細のツインタイプ
	ネームペン	2×班数	
	折り紙（15cm×15cm） 15色程度	1×班数	装飾用なので，カラーマジックでの代用可
	新聞紙	1×班数	裏書き防止用

（※1） 模造紙
 基本的には白い模造紙に，自分たちが歩いた道路を書くところから始めますが，大まかな道だけを書けばよいという指導をしても，子どもたちはこの「道路を書く」という作業に時間をとられがちです。先生が事前に道路を書いたものを用意しておくと，マップ作製の時間短縮が可能です。

（※2） 付箋
 地図に貼る写真に添付するコメントを書き込むための紙です。「危険な場所」「安全な場所」で色分けするために2色あればベストですが，文字を色分けするなど，書き方を工夫すればコピー用紙を小さく切ったものでも代用可能です。
 また，低学年で実施する場合などは，付箋ではなく，あらかじめ記入が必要な項目を印刷した用紙（下記（メモ例）参照）を用意するなどの工夫をしてもよいでしょう。

付箋を使用せず，記入が必要な事項をあらかじめ印刷したメモ例

場所【 **学校前の歩道** 】

きけん・安全の理由（キーワードを使って）

**ガードレールがないので、
車が入りやすい**

「きけん」か「安全」かを書きましょう

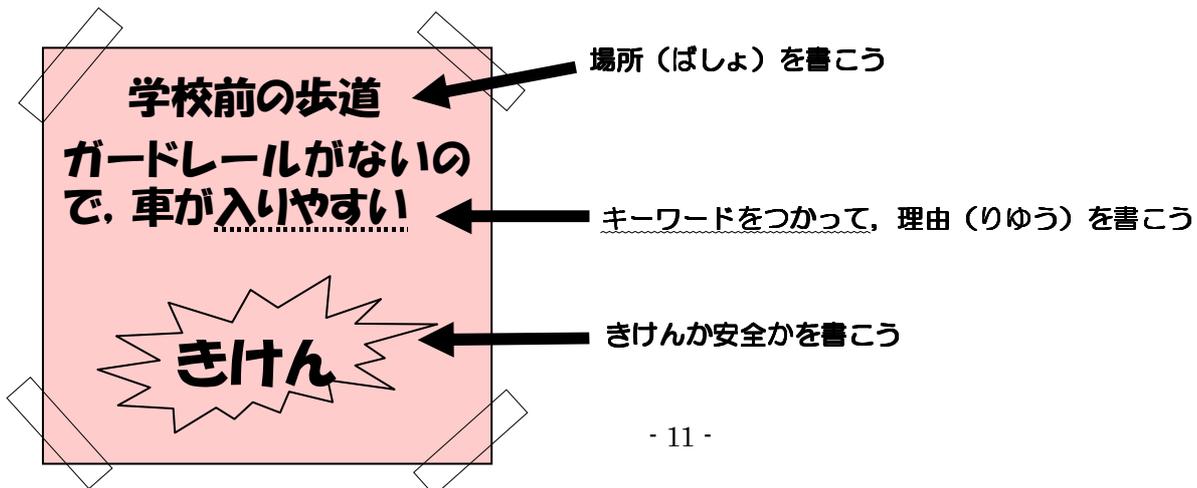
きけん

の部分に
 児童が記載していきます。

フィールドワーク用メモ（ ）班

番号	場所（ばしょ）	理由（りゆう）		区分	
		キーワードでの説明（せつめい）			
例 1	学校前の歩道	ガードレールがない	入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
例 2	〇〇商店	子ども110番の家 何かあったら助けをもとめてにげこめる	入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
①			入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
②			入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
③			入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
④			入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
⑤			入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
⑥			入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
⑦			入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
⑧			入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全
⑨			入しやすい	見えにくい	きけん
			入りにくい	見えやすい	安全

※ このメモを参考（さんこう）にしながら、地図を作る時に写真に説明（せつめい）を付けます。



インタビュー^{げんこう}原稿

おはようございます。（こんにちは。）

〇〇〇小学校〇年生の（ ）です。

いま、^{ちいきあんぜん}地域安全マップの^{べんきょう}勉強をしています。

もうしわけありませんが、インタビューをしてもいいですか。

（いいですよ。と言われたら）

このへんで、^{はんざい}犯罪がおきそうな^{きけん}危険な^{ばしょ}場所がありますか？

（^{ばしょ}場所だけ^{おし}教えてくれたら『^{りゆう}理由』を聞いてみましょう。）

^{きょうりよく}ご協力ありがとうございました。

やくわりぶんたんひょう
 役割分担表 (組 班)

かかり 係	ない 内 よう 容	なまえ 名前
はんちょう 班長 (1名)	グループのリーダー。 みんなの行動や意見をまとめます。	
ふくはんちょう 副班長 (1名)	班長を助けるサブリーダー。フィールドワークのときに列の後ろを歩きます。	
ちすがかり 地図係 (1名)	フィールドワークのときに発見した危険な場所や安全な場所などを、地図に書きこみます。	
カメラ 係 (1~2名)	フィールドワークのときに発見した危険な場所や安全な場所などを、デジタルカメラで撮影します。	
インタビュー 係 (1名)	フィールドワークのときに出会ったまちの人にインタビューをします。	
メモ 係 (1~2名)	フィールドワークのときに発見した場所が、どうして危険だったか、安全だったか理由を書きます。	



このマニュアルに関する問い合わせ

広島県 環境県民局 県民活動課 地域安全グループ
〒730-8511 広島市中区基町 10 番 52 号
電話 082-513-2744
FAX 082-227-2549
E-mail kankatsudo@pref.hiroshima.lg.jp